

日立建機グループのあゆみ

1949年、(株)日立製作所亀有工場で、戦後の復興と社会資本整備に向けた純国産技術による機械式ショベル「U05」が誕生しました。そして翌1950年、U05をモデルチェンジした「U06」の本格生産開始により、日立建機の歴史が始まりました。

その後70年以上、日立建機グループは「現場」が求める最新の建設機械を開発する一方で、RSS(レンタル・セールス・サービス)一体体制のもと、世界のすみずみに販売・サービス網を整備し、お客さまのニーズにお応えしてきました。これからも日立建機グループは、「豊かな大地、豊かな街を未来へ」をテーマとして、世界の「現場」のお客さまに貢献する製品・サービス・ソリューションをお届けしていきます。

日立建機グループの「今」を知るキーワード

北中南米への再上陸

30年以上にわたってパートナーシップを組んできたディア社との業務提携を解消。米大陸全域で独自の販売・サービス網を再構築します。

バリューチェーン事業の強化

部品・サービス、レンタル、中古車、部品再生などの新車販売以外の事業に注力。2021年度にはバリューチェーン事業の売上収益構成比率が40%へと拡大しています。

Reliable solutionsの提供

デジタルテクノロジーを駆使し、お客さまの課題である「安全性向上」「生産性向上」「ライフサイクルコスト低減」を解決する各種ソリューションを提供しています。

ビジネスユニット制の導入

これまでの機能別組織体制を見直し、設計・製造・販売・サービスの一気通貫体制であるビジネスユニット制を導入。お客さま起点の事業体制へと組織を変革します。

パートナーの拡大

2022年1月、日立建機の新たな協業パートナーに日立製作所が日立建機の株の約半分を売却することを発表し、8月に株式譲渡が完了しました。新たなパートナーとの協業が本格的にスタートします。

ESG経営の推進

新しく整理したマテリアリティ(重要課題)のもと、事業を通じて社会課題解決への貢献とグループの持続的成長の両立を図っていきます。



1950年
機械式ショベル「U06」を開発し、建設機械の量産開始



1997年
世界最大級の超大型油圧ショベル「EX5500」完成



2000年
世界初の衛星通信機能を搭載した油圧ショベル「ZAXISシリーズ」発売



1965年
純国産技術による国内初の油圧ショベル「UH03」を製品化



1986年
電子制御導入の新世代油圧ショベル「Landy EXシリーズ」発売



2013年
お客さまの機械を見守るサービスソリューションメニュー「ConSite」提供開始



2016年
ICT油圧ショベル「ZX200X-5B」発売

売上収益
2021年度
1兆250億円